

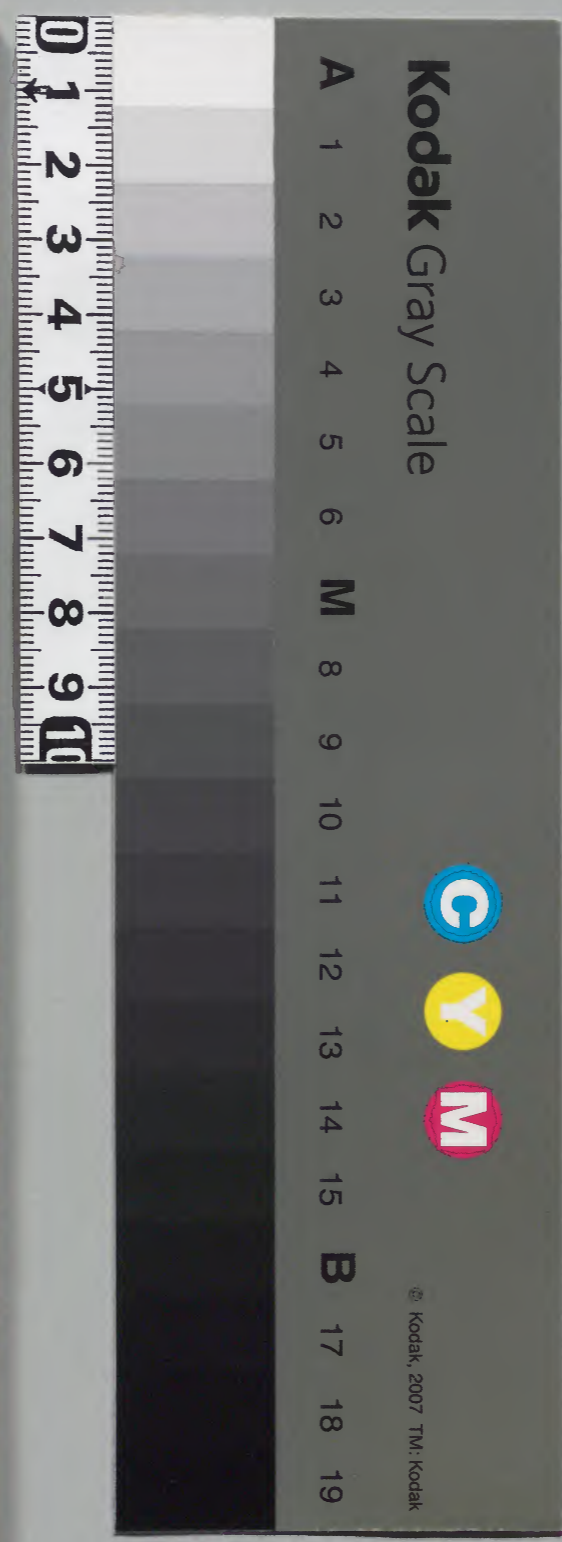
因幡志

三十二

和書門		
八	六	七
九	五	六
三	五	冊
架	函	號

内閣文庫		
八	三	七
五	五	六
七	冊	號
架	函	類

内閣文庫		
番號	和	8676
冊數	35 (32)	
函號	175	104



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

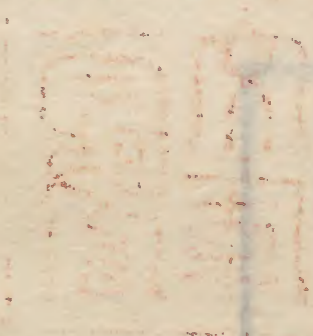
因幡志

古墳
三十四



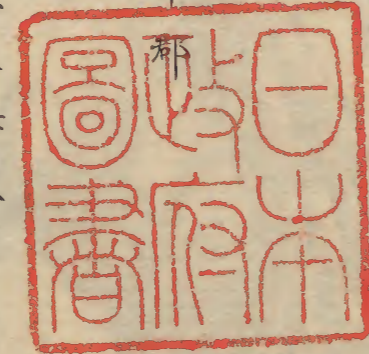
因幡志

卷之十六



因幡志卷之十六

古墳部 五高草
湖山村 産井水



大塚村 吉岡将監墓并大圓寺廢地

湯村 法泉寺位牌

松原村 竹宮

岩本村 首塚

洞谷 破堂

荒神 谷若宮

小原村 辻堂

上原村 古墳

長谷村 立石



高草郡湖山村新川
和泉式部
産水井

上砂見村大五倫
布施村恵心僧都木像

同村古川口



和泉式部胞衣塚

春之終ハ花ノ散ルニ
和泉式部
カキノハノ里ニ
カキノハノ里ニ

和泉式部産水井ハ高草郡湖山村ニアリ新川筋池口ヨリ
二三町下ニ土橋アリ其橋ノ西詰ノ角屋敷ノ後口ツマリ
ナリ横四尺許長サ六七尺ノ井ノ深サハ四五尺モ有ヘシ
潔白ナル夏鏡ノ如シ旱魃トイハレ水涸ル、夏ナリ常ニ
湛浮々ト平地ニ湧出ルナリ近辺是ヲ日用トス又胞衣
塚ハ式部出生ノ時胞衣ヲ埋タル所ト云リ古川筋池口ノ
山下ニ荆棘茨生埋テ印ノ石モ見分ケカタク其所ニダ
ニモ知ル人希ナリ嘆息スルニ堪タリカ、ル名人ノ嘉跡
モ星霜ヲ歴レハ如此予懐右ニ止カタク碑ヲ建テ竟ニ其
夏ヲ識ノミ

和泉式部胞衣塚記並銘

是和泉式部生時埋其胞衣之處也式部者大江定基女為
和泉守橘道貞妻以故稱和泉式部因幡州高草郡湖山有

大江氏遺跡相傳式部生于此
 後一條帝時以善和歌 召侍 上東門院稱辨内侍胞衣
 塚旁可二百步有産水井湖山濱湖本名霞郷産水名興遂
 為地名邨曰宇文字方言産水也天文中州牧山名氏有觀
 賞於宇文溝口之事乃使二村專湖中之利遂合二村改湖
 山銘曰

日月逝矣 千歲誰儔 春霞一曲 遺響不休
 天明七年丁未五月朔日

藩侍醫

恭庵安陪惟親識

和泉式部之歌

去久被之花の都と見ても
 かしみの里にこゝ新垣や塚

大塚村小原山大圓寺廢地



堂二間四面
 圍一丈二尺余
 本尊藥師

銘略曰安
永十次辛

丑仲呂

十二日

原此

鰯口ハ

大塚

村住人

某十余

年前鋤

畑得之

以下畧



徑一尺三寸六分

周廻四尺

右ニ圖繪スルハ小原山大圓寺ノ廢迹也今マ大塚村藥師
堂是レナリ此ノ寺昔シハ大伽藍ニテ子院十二坊ト云ヒ
傳ヘタリ其境内今マニ残リテ大キナル構ナリ何世顛
シケルニヤ佛閣僧房迹形ナクナリシニ本尊藥師ノミ残
リ玉ヒテ小堂ニ安置セリ慶長元和ノ頃トカヤ後口ノ山
崩レ掛リ彼ノ堂モ佛モ共ニ土中ニ埋リケル其後里民其
辺ヲ耕ストテ彼ノ本尊並ニ鰯口等堀リ出セリ其頃奇特
ノ僧有テ是ニ莊嚴ヲ加ヘ草堂ニ安ンス近比明和年中又
鰯口一個堀出ス如圖繪猶郡郷ノ部ニ詳ナリ

吉岡將監定勝墓之圖

此ノ墓ハ高草郡
 大塚村旁爾村
 ノ後口ノ小山
 ニアリ其山ヲ
 小林ト云フ
 野坂村ヨリ
 吉岡湯村へ
 行ケハ西側ノ
 山趾ノ道ヨリ
 左リ田ノ中カ
 へ別路アリ小

吉岡湯村ノ往來道

野坂村ヨリ



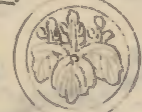
林山ノ麓ヨリ
 廿間許上レハ
 郷墓
 了リ
 其ヨリ
 ツキノ五
 倫ノ塔是
 レナリ

吉岡將監墓

五倫高サ二尺五寸
 石丘方五尺
 許リ

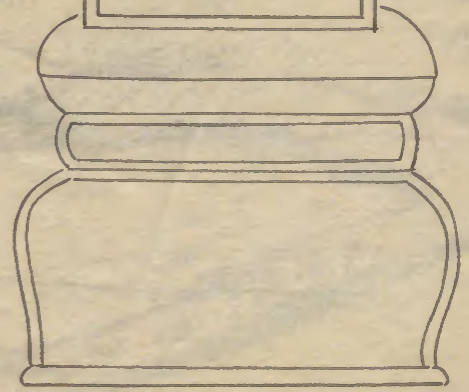


同位牌



同契院殿親衛校尉中山道異大居士

永祿八乙丑
八月十三日



此位牌ハ吉岡湯村宝泉寺ニ安置ス按スルニ年号永祿
トハ不審也將監定勝ハ天正九年秀吉公當國來伐ノ時
防己尾城ニ於テ大ニ苦戦シ落城ノ後流落シテ同郡大
塚村ニ蟄居シ長壽ナリシ莫分明也永祿八年ハ天正九
年ヨリ十七年以前ノ年号ナレハ是必定^{マチカヒ}違覆ナリ疑ハ

將監父春齋ノ位牌ナラム歟但シ當寺ノ説ニ古牌破却
シテ近年新ニ造立セル由ナリ然レハ其時年号^{トリナカヒカキ}僻錯書
タルナルベシ

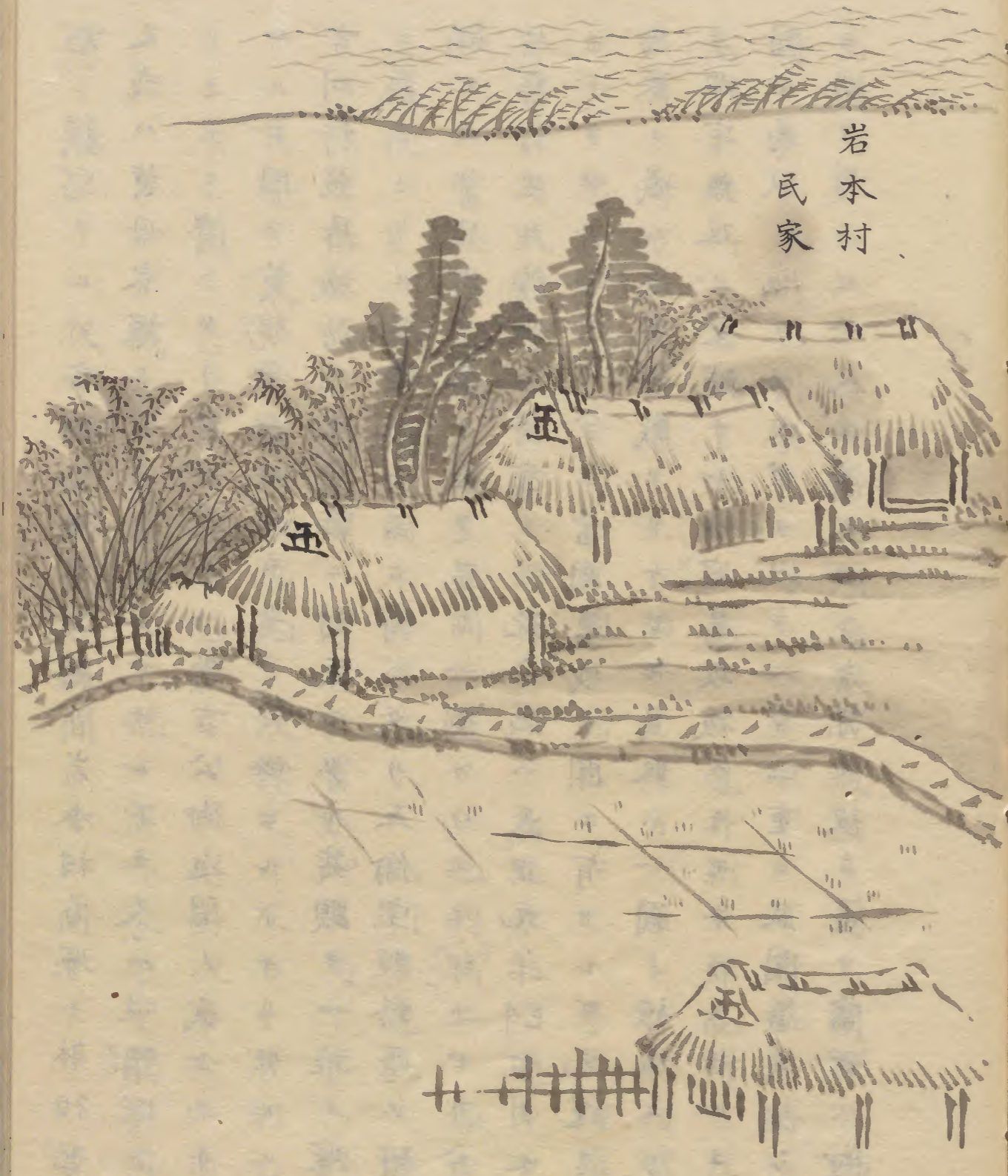
高草郡
小山池

吉岡谷
岩本村

秀吉公御
近習
黄母衣衆
首塚之圖



岩本村
民家



右ニ摸寫スルハ吉岡谷湖水ノ辺リ岩本村首塚ノ躰相也
又或ハ黄母衣塚トモ云フトカヤサレド土人ハ唯頸塚ト
ノミ云ヒ傳ヘタリ黄母衣トハ秀吉公御近習ノ武士ナリ
サルニ因テ黄纒キホ衆黄母衣武者トモ呼ケルトナリ然ルニ
吉岡將監居城防己尾合戦ニ討死シタル其頸ヲ一堆ノ塚
ニ築コメケル其誌也ト云ヒ傳ヘタリ五倫宝經塔等ノ碑
碣モナク只土ヲ盛テ丘ヲ造リ一樹ヲウエテ印シトセリ今
ハ慈竹生ヒ茂リテ鬱蒼タリ此合戦ハ天正九年己辛七月七
日トカヤ秀吉公ハ今年當國來伐ノ聞エ有リシガ先達テ
鳥取ノ城ヘ攻寄合戦アリケレト鳥取ハ一國ノ根城ニシ
テ要害無双ノ堅城ナレハ容易攻拔ベキモアラスサルコ
因テ鳥取ノ城ヲバ大軍ヲ以テ二重三重ニ取圍番兵ヲシ
テ城ヲ護ラセ一人モ洩スマシキ謀ヲ設ケ置テ當所ハ御

出馬アリシナリ其故ハ其頃鳥取ノ城主ヲ初ノ國中ノ地
侍共多分藝州毛利家ニ一味シケル中カニモ將監定勝ハ
毛利ヘ無二ノ忠誠ヲ勵ケル然ルニ亀井新十郎鹿野ニ在
テ兼テ秀吉公ヘ内通シ上方カミガタ隨一ノ味方ナリシカバ將監
ト中カ悪ク如何ニモシテ吉岡ヲ討亡サハヤト思フ折節
秀吉公鳥取對陣コソ幸ノ時節ナレト鳥取表ヘ内通シケ
ルニハ當處防己尾ノ城主吉岡將監コソ毛利無二ノ忠士
ニ候間ダ先ツ此將監ヲ討平ルニ於テハ毛利方近辺ノ城
々ハ自ラ落去スベシ然レハ秀吉公當處御出馬アルニ於
テハ其勢ニ乗シテ亀井防己尾ヲ攻懸ナバ左右ナク討亡
スヘシト竊ニ其首窺ケレハ尤然ルヘシ差因次第ニ出馬
アルヘシトノ儀ナレハ亀井大ニ悦ヒ密ニ家中ニ觸其用
意ヲ催シケル叔吉岡方ニモ其風聞シケル間サアラハ箆

城ノ用意ヲ急ケトテ百姓ヲ催シ城戸逆茂木ヲ付ケ掘櫓
丈夫ニ普請シ玉藥兵糧等阜山ニ用意シ叔領内ノ百姓ヲ
集メ竈城サセケレハ近郷名アル者氏妻子引ツレ皆々竈
リケル本シ丸ニハ將監兄弟其外一族トシテ固メケルニ
ノ丸ハ家老稻村兵衛固メサセ其外手ノ者ニハ近藤某湯
ノ道孝福井山田稻村岡足立岩本ナンド先キトシテ農長
村長共都合三百余人ゾ竈リケル斯テ將監ハ城内ノ諸手
巖シク固人衆賦ヲシテ待カケタリ叔又城内鎮守トシテ
荒神ノ社アリ今度ノ竈城勝軍祈願ノタメ湯ヲ參セ託宣
ヲ聞ントテ冥驗ノ巫ヲ呼テ湯立ヲゾシタリケル此神子
既ニ湯ヲ浴ケレハ荒神忽チ衆ウツリ玉ヒ神変不思議ヲ
現シ託宣ノ詞アラタニ身ノ毛モイヨタツ許リ也其詞ニ
曰ク此度敵大勢ニテ寄来リ大軍有ベシサレドモ城中上

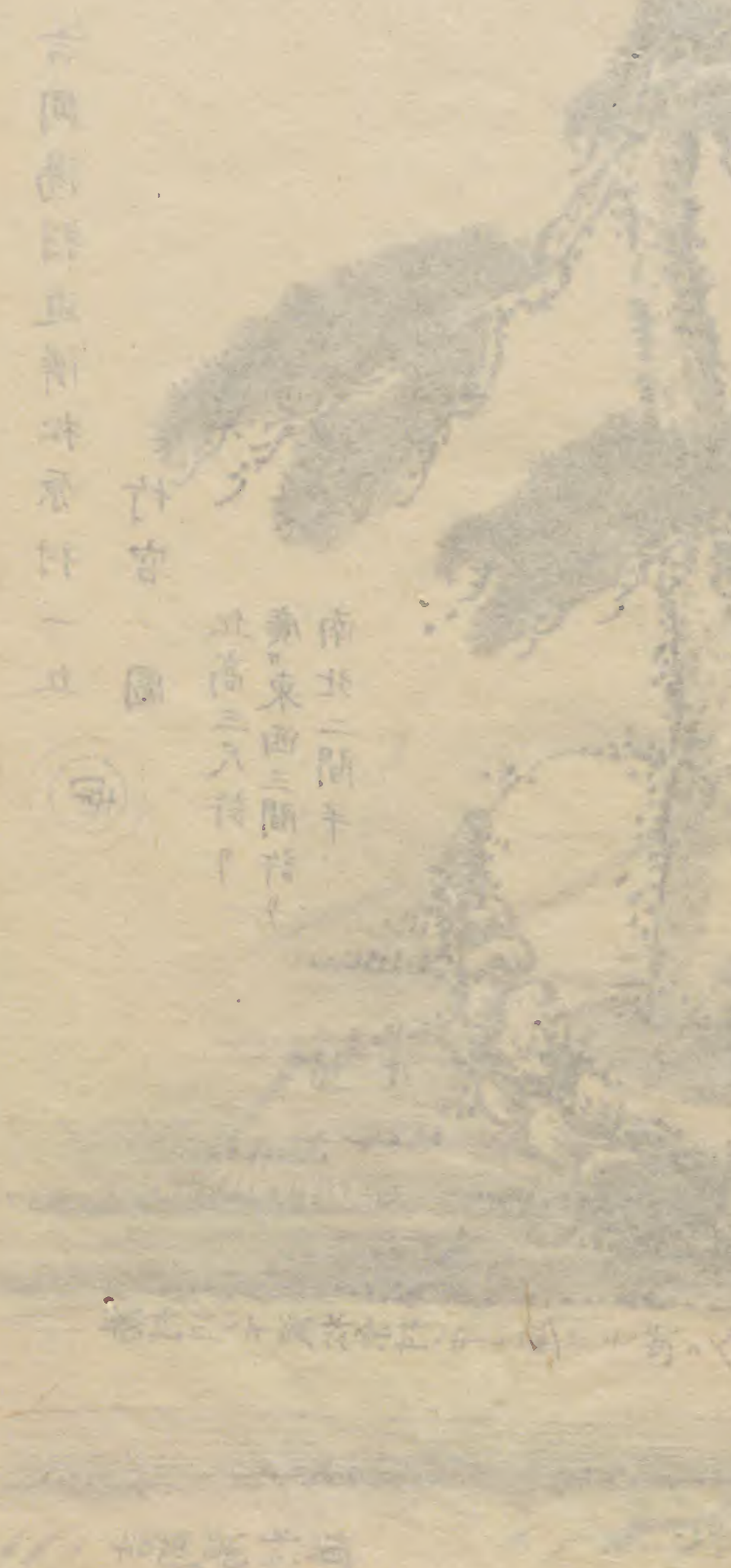
下ノ男女少モ氣遣ナシ城内狭ク小人衆タリトイヘ氏必
ズ心ヲ変スル有ルヘカラス我此所ニ跡ヲタレ城中鎮
護スル上ヘハ少モアヤブミ畏ル、更ナシ諸人只心ヲ一
ニシ城中ヲ出ツヘカラスト神託クリ返シノ、神ハアガ
リ玉ヒケリ是レヲ聞ケル城中ノ貴賤信心肝ニ銘シ此ノ
上ハ何ヲカ疑フヘントテ城内心ヲ合セ一致ニカラ強ク
竈城ヲゾシタリケル叔此ノ神託ハ將監武略ニテ先達テ
彼ノ神子ニ内通シ私カニ右託宣ノ旨ヲ云ヒ教テ口説セ
ケルト後ニソ聞エケル智謀ノ程ソ賢ケレ昔楠正成天王
寺ノ僧ニ内通シ未來記ヲ作リテ讀ケル謀ニ異ナラズト
謂フヘシカクテ亀井ハ家中ニ觸レテ下人ニハ繩一抱木
一本ンツ、手毎ニ持セ一騎馳ニ急キ吉岡へ来ルヘシト
言ヒ捨テ自身ハ手廻リノ勢許リ引ツレ打立防己尾ノ上

ノ山ツ、キ。ダバノ尾ニ馳上リ向城ヲ取テ責カ、リ手勢
モ三百許リニテ陣々ヲ取固メ秀吉公ノ出馬ヲ待カケニ
三度ハ攻タリケレ氏將監ハ智勇武策衆ノ許セル驍將ニ
テ却テ其来銳ヲ折シカハ秀吉公七月七日自ラ推玉ヒテ
陣ヲ三津ヶ崎ニ居ラレ敵城ヲ見渡シ只一攻メニ攻メ崩
サント商量有テ兵ヲ水陸ヨリ向ラレタリ亀井大守ヨリ
打テ入レハ船手ハ山本喜平次多賀文藏吉川平助等大将
トシテ黄母衣武者ナド熊羆ノ爪牙ヲ排ケ本丸ヨリ乗ン
ト搦手サシテ漕向タリ城兵牙ヲ伏セ鳴ヲ静メテ敵船ヲ
乗捨^ス楯^テ下ニ附ンヤ否ヲ覘ヒ定メテ時分ハヨキゾト頭^カ甲^ア
ノ電^テ反^ベヨリ槍ヲ下ロシ色メク処ヲ大木大石ヲ投カケノ
射出ス箭玉ハ雨ノ扉ヲ打ガ如クナリシカハ一タマリモ
ナク積水ノ地ヲ決テ堤頭ノ壞ルガ如ク數艘ノ船武者千

尺ノ碧潭ニコソ沉ミケリ將監兵刃ヲ接ヘス此一戦ニ頸
ヲ得ル夏三百余級ト聞ヘタリ加之將監弟右近トイヘル
ハ從來甲兵ニ練タル不敵ノ男ニテ秀吉公ノ衆軍ヲ不^モ屑^ク
三津ヶ崎ノ陣所へ夜ナ々々忍ヒ討シテ頸數ヲ討取ルノ
ミナラス多賀文藏カ指物ヲ盗ミ取シ事アリシカハ多賀
無念胸間ニ溢レ此城乗崩サスンハ生テ不^レ飯^ト先掛ヲ願
ヒケル秀吉公聞届玉ヒテ則^ニ瓢箪^ニノ御馬符ヲ賜リケルト
カヤ然ルニ多賀戰没シケレハ彼ノ瓢箪ノ馬符ヲ切り取
數多ノ頸ト俱ニ堀^ノ外ニ掛ナラヘ天下無雙ノ弓取羽染
秀吉ヲ討取タル其文證コレニアリト高声ニ言リケルト
ナン今岩本村ニ首塚ト号スル一丘ハ其時ノ大将名アル
武士十三人ノ首ヲ瘞ミケル誌ト云傳ヘタリ秀吉公忿恚
甚ク纜ノ人数ヲ以テ城ヲ持堪ルサハ不敵ナリト覺ルニ

カ、ルフルマヒコソ安カラ子兵糧ツメニスベシトテ加
 勢一二頭残シ人数ヲ皆鳥取へ打入レ玉フサル程ニ城中
 ニハ味方一人モ不損大敵數ヲ討亡シ勇ニ誇ル^誇度限ナシ
 夜ニ入り池中ニ人ヲ入レ討死ノ死骸ヲ^{カウキ}潜上ケサセ悉ク
 頸ヲ刎子堀ノ手ニホテ結渡シ一面ニ梟竝ベケル其後ハ
 亀井モ秀吉公ノ下知テ守リ陣所ノ用害ヲ丈夫ニ拵へ番
 所ヲ構へ城ノ出入ヲ留テ圍ケル其ヨリ亀井遠マキニ打
 圍テ合戦ハ罷ケルガ七月ノ末ニ至テ糧ツキ城中堪カ子
 夜トタニコソ落失ケリ又土人口碑ニ此時彼ノ堀ノ手
 ニ梟竝^{カケナラ}ベタル頸^{ヒラケテ}凡^{ヒラケテ}三艘此処ニ瘞テ土ヲ盛テ一堆
 ノ塚ト為タルハ只頸塚トノミ書傳ヘテ黄母衣塚トドノ
 唱ハ不知ト云ヘリ其理能ク通シテ分明也然ルヲ黄母衣
 塚トトノ唱ハ後来黄吻族附益之ト謂レ^カ又此塚ヨリ暗

夜ニハ陰火ヲ祭ス風雨アレハ猶明カ也本州綱目所謂燐^シ
 火ノ類歟但以馬^{イリミ}銜^ラ相^ト憂^{ウツテ}作^ス聲^ヲ即滅^ス以下畧
 ニアリ即チ隣邑松原村竹宮ノ松下ヨリモ燐火ヲ發ス竹
 ノ宮ノ圖左ニミエタリ



南北二間
 東西三間
 此高ニ入
 竹宮ノ圖

吉岡湯村近隣松原村一丘

竹宮ノ圖

東

丘高三尺許り
廣サ東西三間許り
南北二間半



松高サ
二丈五尺余リ
根本圍二尺許リ

北

湯村川下流松原村中ヲ通リテ池ニ入ル

吉岡湯村道

西

松原村
民家小川ヲ
隔テ東西ニ
アリ



右ニ圖寫スル竹ノ宮ト号スルハ松原村南ノ方田ノ中
ノ一丘ナリ何シ人ノ墓ト塚トモ知ル人ナシ丘上ニ松
一樹生リ暗夜ニハ松下ヨリ必ス陰火ヲ發スナルニ因
テ土人火焰松或ハ火焰松^塚ナト云ヘリ是レモ隣邑岩本
ノ頸塚ノ類ナルニヤト思ヘト其程星霜舊キ松氏見エ
ス又或説ニ是レハサシタル塚ニハアラス何ノ頃ニヤ
喜作ト云シ土人竹ト云フ女ヲ殺シ此処ニ死骸ヲ埋テ
後ニ松ヲ植^{ホコ}倉ヲ建テ誌シトシケレハ其女ノ名ヲ呼
テ竹ノ宮ト土俗云フトモイヘリ

洞谷破堂



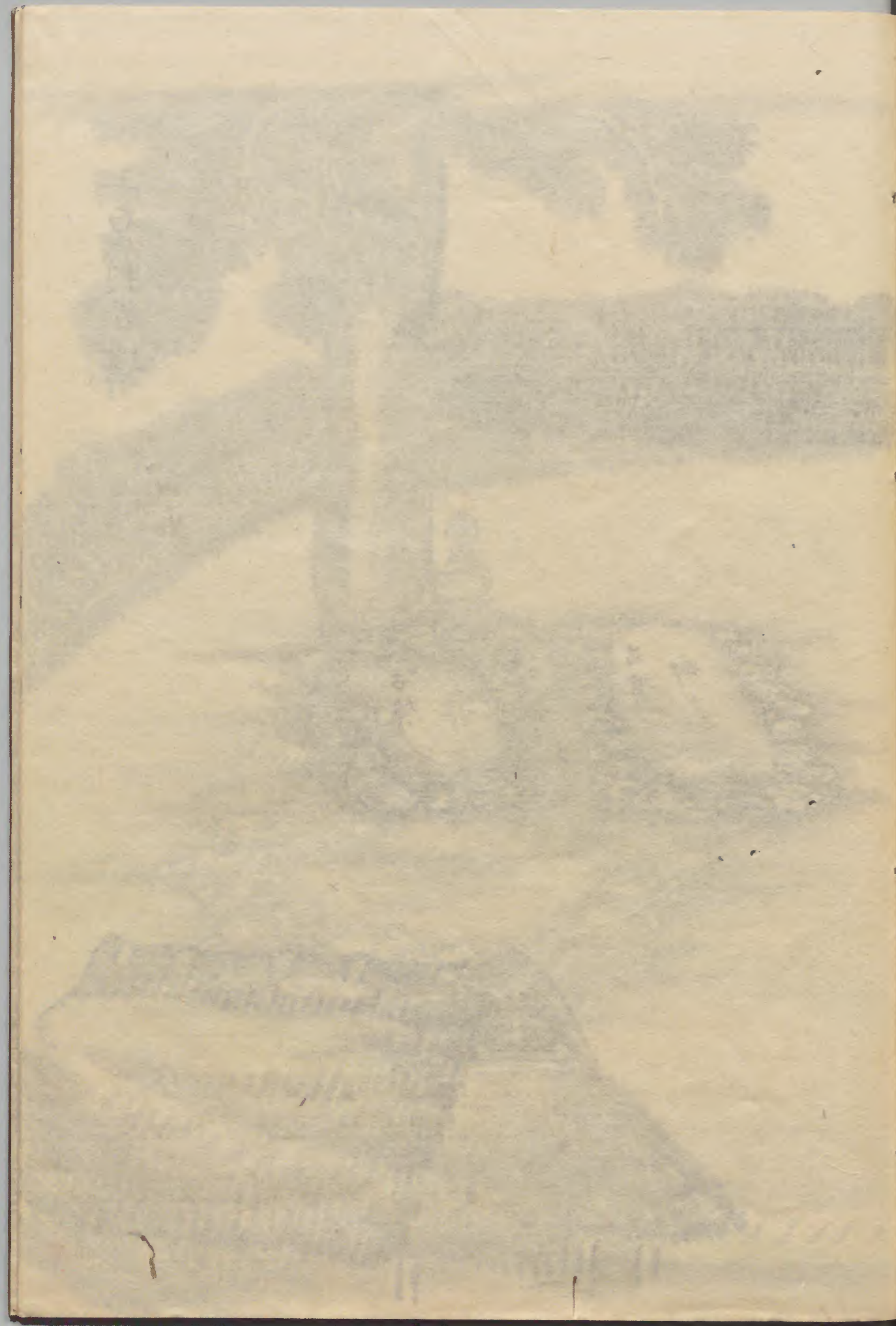
高草郡洞谷村ノ奥洞谷河内ト鹿奴道ト追分ノ山裾ニ
アリ今ハ堂宇モナシ平地僅ニ古キ推ノ木ノ下ニ五倫
四基アリ昔此所ニ堂宇アリ後代修補ノ施主ナシ故ニ
破レ堂ト云フトイヘリ五倫モ故アル古墳トミエ又古
城跡アリ詳ニ別巻ニ見エタリ



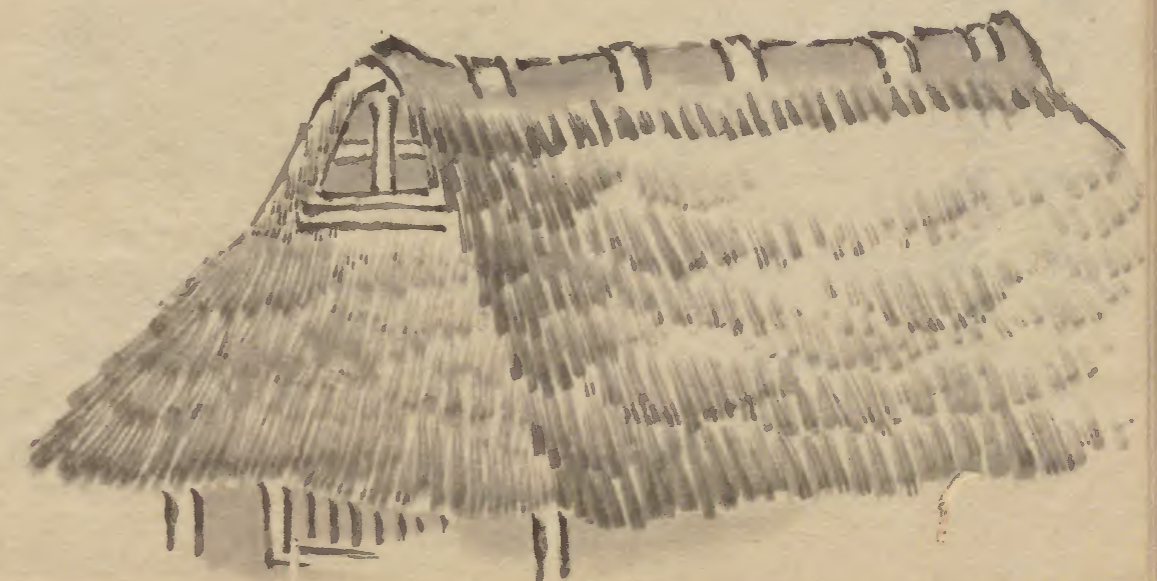
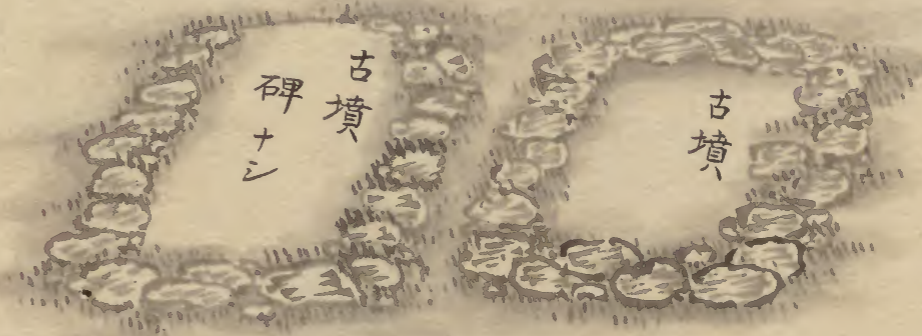
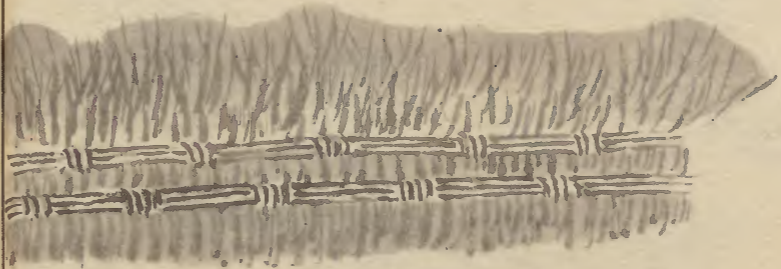
高草郡荒神谷村若宮ハ臼谷口ノ左ノ山下ニアリ或ハ謂
谷古賀乃木ノ下ニ石地蔵ヲ安ス昔ハ小社アリシ故若宮
トイフニヤ相傳天正四年玉津村鴨尾ノ城主武田豊前守
高信八上郡散岐村ノ於大義寺山名豊國ノ為ニ誅セラレ
ケル時一族城ヲ落テ四方ヘ離散セリ其時高信ガ妻女家
老西郷因幡守カ指圖ニ依テ西郷カ婿ナル松上社ノ神主
大畠某ヲ頼ント猪子谷ヨリ此谷ヘ打越ケルカ敵勢逃カ
タキヲ追テ所々ニ散在ス丈人ハ見怪メラレンモ恐シク
此村ノ百姓ヲタノミ少間土蔵ノ内ニカクレ居ケリ然ル
ニ落人吟味嚴重ナリシカハ村民潛ニ相議シ強ニ匿置ハ
後難アラン迎モ逃レ又命早ク殺テ褒美ヲ得ント謀ケル
夫人其妻ヲ悟身ニアラン程ノ財寶ハ得サスヘシ一向ニ
命ヲ助ケケレヨトイフ土人情ナク遂ニ殺之携ル所ノ金

銀ヲ奪ヒ衣裝剥取死骸ヲ此所ニ瘞ケルト其後此里ニ怪
異斷間無リケレハ其執恨ノ祟ナラント佛事作善ヲ營ミ
数多ノ卒都婆ヲ建ケレハ其レヨリ此地ヲ卒都婆谷ト云
習シケルトソ或ハ夫人最期ニ臨ミ此恨ハ永ク汝等カ子
孫ニ報テ此里有ン限り困乏ナラシメン若倉建ル程ノ者
アラハ忽燒殺ント云テ失ケルカ末世ニ至テ此里ニ倉一
ツモ無ハ其故ナリト云ヘリ今ハ神ニ祝ヒ若宮ト崇ム時
去世変テ其執恨モウスクナリシニヤ近年倉物置モアレ
トモ祟ル沙汰モ無リキ

右ハ宇治拾遺物語ニ載之野坂之里國隆寺ノ地藏ナリ
國隆寺ノ廢迹ハ當村後ノ山上ニアリ本尊長蓮花臺ニ
ニ九三尺蓮花臺ノ高廿九三寸五分



上原村古墳



高草郡上原村百姓庄右衛門屋鋪ノ内ニ五倫ノ碑碣アリ
高サ六尺許リ其外ニケ所古墳迹アリ如何ナル人ノ
墓ト云フ莫不知



高草郡長谷村ニアリ吉備大臣之塚ト云加露ノ社記ニ
吉備公此村ニ塚ヲ築キ置キ玉ヲ由ミユサレ氏今コレ
ヲ知ル人ナシ按ルニ村ノ入口長谷寺經^{ミヤ}右ノ側社家桐
林氏門前ニ自然石ノ碑アリ高六尺余根入深サ知ルハ
カラス村民立石ト云尤上古ノ碑ナルヘシモ此等ノ
莫ナルニヤ不分明之イカナルコトニテ吉備公ノ建給
ヒシト云ルカイブカシサレ氏圖ニハ出シオクナリ

上四ノ大五ノ



大正圖書院印

土ヨリ上
高五尺余



上砂見大五倫

土ヨリ上
五尺七寸

土ヨリ上
高六尺余

村ノ入口ニアリ



高草郡上砂見ト中砂見ノ傍尔ノ界ニアリ高サ八九尺
尋常ノ碑碣ニアラス其外所々ニアリ仔細シレス



明治十年十一月

板垣経信
鈴木安襄
校

